

論文審査の要旨  
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の 名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 ( 教育学 ) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	鮎 小磊
学位授与の要件	学位規則第4条第1・2 項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 中国語を母語とする日本語学習者の敬語規範意識と敬語使用に関する分析 －「人間関係」と「場面」に着目して－			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		畑佐 由紀子	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		白川 博之	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		永田 良太	
審 査 委 員 (Name of the Committee Member)		間瀬 茂夫	
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>本研究は、中国人日本語学習者の敬語規範意識と使用実態について以下の2つの課題を設定して遂行された。</p> <p>【課題1】学習者は敬語を使用する人間関係と場面について、どのような規範意識を有しているのか。学習者と母語話者の規範意識の類似点と相違点はどこにあるか。</p> <p>【課題2】人間関係と場面による母語話者と学習者の敬語使用の類似点と相違点はどこにあるのか。またその原因は何か。</p> <p>本論文は、全6章で構成される。</p> <p>第1章では、本研究を遂行するに至った社会的・教育的背景を説明し、本研究の目的を述べた。</p> <p>第2章では、先行研究をもとに、敬語の定義・対人機能・種類について整理した。さらに、敬語使用、敬語規範意識、学習者の母語における敬語と日本語との違いに関する先行研究について考察し、残された課題を述べ、本研究の課題を導出した。</p> <p>第3章では、学習者の人間関係と場面に関する敬語規範意識を探る質問紙調査をもとに、学習者と母語話者の敬語規範意識の相違について検討を行った。その結果、</p>			

学習者と母語話者の規範意識は類似していたが、母語話者と異なり学習者は、親疎関係に加え、目上の家族にも敬語を使用すべきだと考えていることが分かった。

第4章では、学習者と母語話者が敬語を使う可能性が高い人間関係（教師、上司、面接官）と場面（感謝場面、依頼場面、面接場面）を操作した3つのロールプレイ調査について詳述した。分析の結果、学習者は母語話者ほど敬語を使わず、丁寧度の調整も不安定であり、定型表現に依存しがちであることが分かった。

第5章では、人間関係（教師）と場面（感謝、依頼）及び話者との親疎関係を操作したロールプレイについて報告した。その結果、母語話者と異なり、学習者は親疎関係により敬語を使い分けていなかった。また、謙譲語に依存し、母語話者のように尊敬語と謙譲語を使い分けることができなかった。

第6章では、各章の研究結果を総合的に分析した。その上で、本論文で得られた知見に基づき、敬語の手続的知識の深化につながる教育的示唆及び今後の課題を述べた。

本論文は、次の3点で高く評価できる。

1. 学習者の母語からの敬語規範意識と敬語使用の転移という視点から検討した点で新規性に富む。
2. 母語話者と異なり、学習者の敬語意識が敬語使用実態にはつながらないことを示した。
3. 学習者の敬語形式の機能や非敬体に対する考え方の問題を指摘し、効果的な指導の在り方について検討した。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（教育学）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

令和 5年 3月23日

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)